

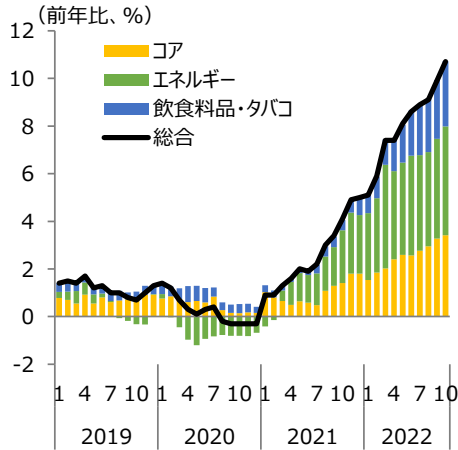
欧州

消費者物価 (2022年10月)

消費者物価は10%超え、記録的上昇が続く

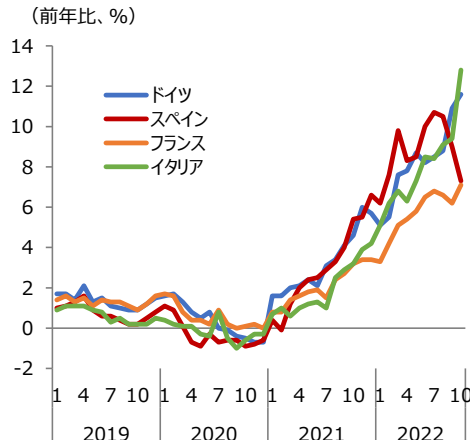
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価 (ユーロ圏、寄与度)



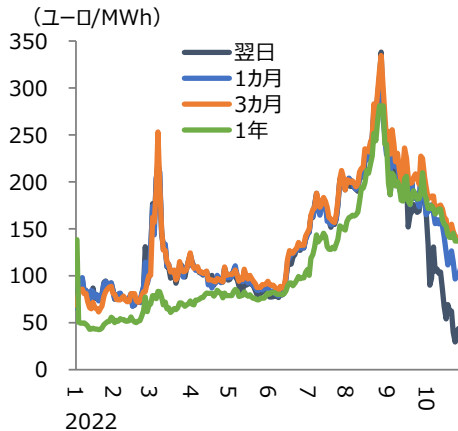
出所: Eurostatより三菱総合研究所作成

2 消費者物価 (主要国)



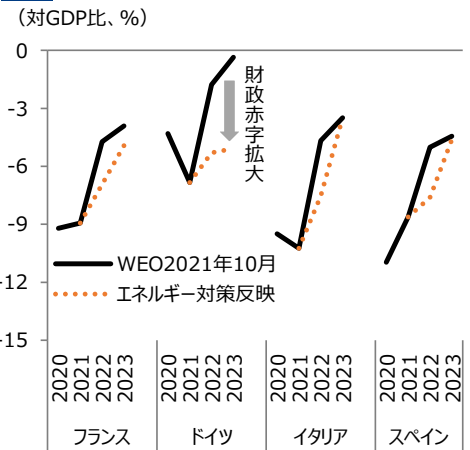
出所: Eurostatより三菱総合研究所作成

3 天然ガス先物価格



注: 日次。
出所: Bloombergをもとに三菱総合研究所作成

4 財政収支対GDP比



注: エネルギー対策反映後の財政収支は、IMF「WEO(2021年10月)」の財政収支に、Bruegelの各国のエネルギー高対策の歳出まとめ(22年10月時点)を反映し計算。
出所: IMF、Bruegelより三菱総合研究所試算

評価ポイント

今回の結果

- 22年10月のユーロ圏の消費者物価指数(HICP、速報値)は前年同月比+10.7%(図表1)。速報段階では2カ月連続で10%台の上昇となった。
- ユーロ圏の物価上昇の主因である、エネルギーや食料品価格の上昇が継続。コア物価も前年比+5.0%まで伸びが拡大(22年9月同+4.8%)した。
- 主要国では、イタリア(前年同月比+12.8%)とドイツ(同+11.6%)で10%超の伸びを記録(図表2)。イタリアは、10月に電力の規制料金価格が改定され、エネルギー価格が大幅に上昇した(9月同+45.0%→10月同+73.9%)。

基調判断と今後の流れ

- 急速な利上げが進むものの、消費者物価は記録的上昇が続いている。
- 先行きは、①エネルギー価格低下、②経済減速による需要要因の弱まり、から物価上昇圧力が徐々に弱まるとみる。
- ①エネルギー価格は、今年の冬のエネルギー確保に目途がついたことから、天然ガス先物価格は低下している(図表3)。②ユーロ圏経済はプラス成長(22年7-9月期実質GDP前期比+0.2%)を維持したが減速傾向にあり、先行きは利上げや物価高の影響からマイナス成長を見込む。コスト・需要の双方の要因から物価上昇圧力は徐々に弱まるだろう。
- ただし、物価の伸びが高止まるリスクもある。第一に、ロシアからの天然ガス供給の完全停止や厳冬などの外部環境要因によるエネルギー価格高騰である。
- 第二に、各国のエネルギー高対策による需要抑制の緩和だ。各国で実施・検討されている大規模な財政政策は(図表4)、短期的には物価押し下げに寄与するが、需要抑制の緩和につながり、金融引き締め効果を弱める。大規模な財政出動が続けば、需要抑制が進まず、物価の高止まりが長期化するだろう。